
チートな過負荷の異常者

アリス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チートな過負荷の異常者

【Nコード】

N8110Y

【作者名】

アリス

【あらすじ】

めだかボックスに転生したオリキャラが繰り広げる過負荷で異常者な物語です。

処女作です。それが苦手な方は読まない事をオススメします。でも、できる限り頑張っていきますので、それでも大丈夫な方は読んで下さい。

基本は原作沿いのはずです。

プロローグ

俺は死んだ。

そして、目の前には変なおっさんがいた。

「本当にすまん！」

「いや、あんた誰？」

神「わしは神じゃ！」

は？

神「うて、あの神？」

神「そうじゃ」

なっ！心を読まれた？

神「わしは神じゃぞ？それぐらいできるわ！」

いきなりで悪いがお主にはめだかボックスの世界に転生してもらおうぞ？

「本当いきなりだな！！てか、なんでめだかボックスなんだよ！！」

神「さっきくじ引きで決まった」

「くじ引きで！？」

神「とにかく、決まったものしょうがないので、転生してもらおうぞ

「？」

「はあ、まあ、いいや、俺みたいな異常者にはびったりだし」

神「じゃあ、そういう事で二回目の人生楽しんでくるのじゃぞ？」

もうあんな事が起きんようにな」

「は？今なんて言った？」

すると、突然足元に穴ができた。当然俺はなすすべもなく落ちていった。

「あんの糞じじいー！絶対殴ってやるー！」

主人公紹介（前書き）

主人公紹介です。

一応早めにやっとした方がいいと思います

主人公紹介

名前：天神 咲夜

アマガミ サクヤ

容姿：RAVEのハルみみたいな感じ

身長：180

体重：68

性格：前の世界では異常だった為に親に捨てられ孤独だった為あまり目立ちたくない。

まあ、とか言いつつ目立つんですがね。

でも、人が困ってたらちよくちよく助けたりはします。

基本はめんどくさがりですがなんだかんだでいろいろ巻き込まれます。

異常

アルティメット

究極

物事を究極にこなす事ができる。

チートですね

過負荷

？

これは後々成長してから出てきます。

まさかの赤ん坊！？（前書き）

初めてなので結構ミスったりしますが、そこらへんはご了承ください。

まさかの赤ん坊！？

(あれ？どこだ？)

目が覚めたら知らない天井だった。すると横には知らない男性と女性がいた。

「おおっ！やっと産まれたぞ！」

「本当だわ、かわいいわね」

(なんだ？)

俺は現状をつかめず、とりあえず何か喋ろうと思ひ声を出した。

「あぶあっ」

あれ？しゃべれない、なんで？

ふと、手を見てみると、手が小さくなっていた。つか、赤ん坊の手だった。

まさか！？ と思い近くにあつた鏡を見てみると、まあ、見事なまでの赤ん坊の姿だった。

「あ、あぶぶばあー！？(な、何じゃこりゃー！？)」

マジか、まさかの赤ん坊からかよ

私は何のために生まれてきた？（前書き）

やっぱり難しいですね

文才が欲しい

私は何のために生まれてきた？

いやあ、やっと2歳になった。

この2年間はいろいろ辛かった

特に授乳の時はヤバかった

よく耐えたな、俺

何がどうあれ今病院にいます。

なんか、異常性を調べるらしいからとか。

え？、何故かって？

そりゃ、俺が1歳半の時に計算式を解いているのを母親に見られたからですよ、まあ、普通1歳半の幼児が計算式といてたら、そりゃ、母親を疑問を持ち始めるさっ！

そして、只今イスに座り自分の番がくるのをまっっているとオカッパ頭をした女の子がきた。

「おい、隣座ってもいいか？」

「どっぞ〜」

「ありがとう」

その子は、礼をしてイスに座った。よく見ると、わくわくした感じが感じとれた。

「君どうしてそんなわくわくしてるの？」

「む？顔に出てたか、そうなのだ、もしかしたら私にわからない事がわかるかもしれないと思うと思ってな」

「そっか」

「『まつたく』 『なんのためだなんて』 『みんな大人のくせに』 『外的外れだよねえ』 『人間は無意味に生まれて』 『無関係に生きて』 『無価値に死ぬに決まってるのにさ』 『きみたちもそう思うだろう？』 『えーと』 『めだかちゃんにさくやくん？』 「

何この子？なんか、ボロボロのぬいぐるみ持つてるんだけどっ！？

「そうか？俺は、人間は意味があって生きてると思うけどな」

「『へえ〜』 『まだそんな事が言えるんだ』 『まあ』 『その内きみにもわかるよ』 『でも、めだかちゃんは？』 『きみもきつといっぱい人を終わらせてここに來たんだよね』 『いいんだよそれで』 『僕やきみはなにをしてもいいんだ』 「

「球磨川くーん、五番検査室に入ってくれー？」

ナースの人がそのボロボロのぬいぐるみを持った子に言った。

俺はその時その子の名札を見た。

名札にはくまがわ みそぎと書いてあった。

すると、その子は立ち上がり

「『だって世界には目標なんてなくて』 『人生には目的なんてないんだから』 「

そう言いその子は去って言った。

「えっと、大丈夫？めだかちゃん？」

あの子が去ってから、めだかちゃんという子はずっと俯いて何かを
考えているようだった。

それから、俺は検査が終わり、適当に歩いてたら、目の前に託児室
と書かれてる部屋があったのでとりあえず入ってみる事にした。

「ちゃーす」

「うん？だれ？」

中にはフードを被った子がいた。

「何してるの？」

「パズルを解いてるんだよ！」

「ふ〜ん、まあ、頑張ってるね、俺は寝るから」

「ええ〜、遊ぼうよ！」

「ええ〜、眠い」

「ねえ、このパズル解いてよ！どうやっても解けないんだあ！」

「はあ〜、わかったよ」

カチャ　カチャ　カチャッ

「ほら、解けたよ」

「うわぁっ、すごいねーすごいすごいー」

「じゃあ、もう寝るからね」

「つぎは、これ解いてよー」

「いいよ、解いてやるよ、貸してみろっ」

side めだか

私は今逃走している。

何故か言つと毎日続く検査に嫌気が差したからだ。

「おい！13番ー黒神めだかはどこに行った！？探せ！！
まだそんなに遠くには行ってないはずだ！」

思ったよりも大ごとになってしまった。

外に逃げることは無理そうだ。

ひとまず私は託児室というところに逃げ込んだ。

中には子供が二人いるだけだった。

一人はすごいはいでいて、もう一人は、なんか、すごい真剣だった。

とりあえず、まず、はしゃいでいる子の方に話しかけてみた。

「おい

そんな単純なパズルに何をてこずっておる？貸せ
私がやってやる」

カチャ　カチャツ　カチャ

「ほら解けたぞ」

「うわあっすごいねきみ！

ありがとう！

すごくうれしいよ！」

「　　礼には及ばない

私にとっては取るに足りないことだ」

すると、もう一人の子供がやってきた

「おい！全部解いてやったぞ！」

「うわあああ！本当だ！全部解いちゃった！

すごいすごいすごい！きみたちはすごくすごいや！」

「　　すごくなんか、それにすごくたって何にもならない
私が生きていることに

　　私が生まれたことに

何の意味もないのだから」

「そうか？俺は人は意味があつて生きていると思つぞ？」

「
　　だつたら私に教えるがよい
私は一体何のために生まれてきた？」

「うん、何のために生まれてきたかかあ
ねえ、きみはこれを解いてもらつて嬉しい？」

「うんっ！すっごくうれしいよ！」

「ほら、きみはこの子をこんな嬉しい気持ちにさしてあげたんだ
きみはきつと、みんなを幸せにするために生まれてきたんじゃない
か？」

そうその子は微笑みながら言った。

！？　　そうか、私はみんなを幸せにするために生まれてきたの
か

そう思つと自然と涙が出てきた。

そして、私はその子に抱きついた。

「いでっ、なんだよ！」

私はただ一言。

「ありがとう！」

私は何のために生まれてきた？（後書き）

書いててめだかってこんなんであってるっけ？と思いました。

アドバイスとかもらえたら嬉しいです。

幼稚園での再会（前書き）

オリジナルの話しは初めてですが上手く出来てるでしょうか？

正直不安です。

幼稚園での再会

ちやーす、只今幼稚園に向かっています。

あれからめだか達とは一回もあつてなく普通に過ごしてきました！。ちなみに、名前は教えてないです、何故かと言うと教える前に俺がダッシュで逃げたからだ！！

理由は　　特にない、何となくだ！

そうこうしてる内に幼稚園に着き、今は自己紹介中です。

「今からみんなと一緒に勉強する天神

咲夜君です。

みんな仲良くしてね」

そう幼稚園の先生が説明をしてみると、ふと金髪の男の子とオカッパ

頭の女の子がこつちを見てるのに気がついた。

いや、金髪の男の子は驚いてから笑顔になった。

オカッパ頭の女の子も驚いてから涙目になった。

うん？なんで、涙目？

すると、いきなり立ち上がり消えた！？

そして、抱きついてきた

「ぐフアっ！？」

待て！これは抱きついてきたというよりタックルだ！！

ちよーいてー

「今まで何処におった！？探したんだぞ？」

その女の子は半泣きになりながら言った。

「わかった、悪かったからまずは、一回落ち着こう、さっきから身体がミシミシいってる」

「む、わかった」

わかってくれたか

「改めて、私の名前は黒神めだかだ！
そして、こっちは人吉善吉だ！」

「よろしくねえ！さくやくん！」

「うん、よろしく」

「私は？」

「ああ、めだかもよろしく」

「うむ、よろしく！」

そういって、また抱きついたり、
いや、だから痛いって！まじで！

「私はずっと会いたかったぞ！」

「わかったから、さらに力を入れるな、痛いって」

まあ、どうあれ内心めだか達に会えたのは嬉しいことだ

「じゃあ、今日はみんなで鬼ごっこをしましょうかー」

先生の提案で今日は鬼ごっこをすることになった。

「それじゃあ、鬼は私がやるう」

ということ鬼はめだかになり、皆一斉に逃げていった。

「28、29、30、では、ゆくぞー！」

そう言いめだかは消えた

は？マジかよ

あ、あっちでもう三人捕まった。

はやっ！！

そして、瞬く間に俺と善吉以外は全員捕まった。

え？なんで、そんな事がわかるかって？

そりゃ、俺が屋根の上にいるからだよ

あ、善吉が捕まった。

「うわあ！捕まっちゃった！やっぱりめだかちゃんはずいこいやー！」

「さて、残りは咲夜だけだな　　！！！」

あ、やべ！気づかれた！

あ、また消えた　　って、もう目の前にいるし！！

「捕まえた」

スカッ

「む？」

あぶねえー、間一髪ジャンプしてなんとか捕まらずにすんだ。

「さて、逃げるか　　って、もう追いかけてきた！」

「待て！」

「待てと言われて待つやつがいるかあ！」

それからは、まあ、一時間ぐらいダッシュで逃げまくって、時には10メートル以上ジャンプしたりと、結局先生が終わりにするまでこの鬼ごっこは続いた。

はあ、疲れた。

side　　めだか

はあ　　はあ

結局捕まえる事ができなかった。

だが、不思議と気分は晴れやかだった。

私よりも上の存在がいたのがこんなに嬉しい事だとは思わなかった。

ふふふっ、次は絶対に負けぬぞ！咲夜よ。

幼稚園での再会（後書き）

モンハンサードにまたはまってるアリスです。

なんとか、出来ました。が、めだかってこんな口調でしたっけ？
よくわからなくなりました。

私の家に遊びに来い！ 凍っ！！（前書き）

モンハンでイビルジョーを倒すのに必死なアリスです。

いろいろ指摘やアドバイスをもらえたら嬉しいです。

私の家に遊びに来て！ 凜っ！！

ちやーす、現在熟睡中の天神咲夜です。

「い　ろ」

「おい　きろ」

「おい！起きると言ってるだろう」

ううーん、誰だ？

俺は眠い目をこすりながら目をあけると

「やっと起きたか」

そこにはめだかがいた。

「いや、まず、なんでお前がここにいる？鍵はかけたはずだぞ？」

「ふっ、あんなもので私が諦めるとでも思ったか？」

まさかあいつ！鍵壊したのかっ！

「　　はあ、で？何の用？」

「　　今日は私の家に遊びに来て！」凜っ！

「　　おやす「寝るなっ！」ぐはあ！」

あいつボディブローかましてきやがった!!

「俺は寝たいんだよ!寝させるよ」

「うむ、残念ながらそれは無理だ」

「はあ!?!」

「今はもう車の中だからな」

は?

本当だ　よく見たら見たことない天井だし
つか、これリムジン?

「なあ、これリムジン?」

「うむ、そつだ!」凜っ!

へえ

あ、善吉がいた。

「善吉、おはよう」

「うん!おはよう!」

「ほら、着いたぞ」

どつちから、そつ!つしてゐるうちに家に着いたらしい。

「デカ」

車を降りてみたら目の前にはすごい大きな豪邸があった。

「お帰りなさいませ！お嬢様とお友達方！」

そして、たくさんのメイドの方々が出迎えてくれた。

「うむ」

めだかは、挨拶をし、

堂々とその真ん中を歩いていった

「ほら、早く来い」

今日この日改めてめだかの凄さを知った俺であった。

私の家に遊びに来い！ 凍っ！！（後書き）

書いててよくわからなくなってきました

こんな感じで大丈夫なのか正直不安です。

いや、違うけど？（前書き）

まあ、何とかここまで書けました

こんな感じで大丈夫かな？

いや、違っけど？

俺達は、めだかの家に入り部屋に向かって歩いていると向こうから俺と同じかちょっと上ぐらいの男の子が走ってきた。

「やあ、めだかちゃんおおかえり！寂しかっただろ？さあ！僕の胸に飛び込んでおいで！」

するとめだかは走っていき

スウッ　　ドゴッ！

思いつきキックをかました

あれは、ぞくにいうライダーキックだな。

そのまま、その子はふっ飛び壁に激突した。

「さあ、ゆくぞー！」

そして、何事もなかったようにめだかは歩き出した

「うわあ！すごいね！」

「確かにすごいな」

善吉は笑顔ではしゃいでいた。
いや、お前のほうがすごいよ

「さあ、着いたぞ」

やっつめだかの部屋に着き扉を開けると

「やあ、めだかちゃん！何して遊ぶんだい？」

中には、さっきの子がいた

するとめだかはその子のところに歩いていき

ドゴツ！

ガシツ

ヒョイ

バタン！

カチャ

ええ〜と、説明するなら思いつきり右フックをしそのまま掴んで部屋の外に投げ扉を閉めて鍵をかけた

「さあ、遊ぶぞ！」

そしてまた何事もなかったように言った

「すごいすごい！」

善吉は、またはしゃいであるし

まあ、いいか

「では、咲夜よ

まずは、これで遊ぶぞ！」

そう言い取り出したのは、囲碁？

そして、俺達は遊び始めた

只今勝敗は2勝2敗1引き分け。
俺が早く終わりにしたいからわざと負けてたら「ちゃんと本気で来い！」と言われたので本気でやったら2勝してしまいそしたら、なんか、めだかはキラキラした目で見てくるし、善吉にいたっては寝てるし

あ、やべっトイレ行きてー

「悪いめだか、ちょっとトイレに行ってくるわ」

「む？わかった、早く戻ってくるのだぞ？」

「あいよ」

俺は立ち上がりトイレに向かった。

さて、ここは何処だ？
たしか、用を済ましてから、きた道を戻ろうとして歩いてたはずなのになあ。
まあ、いいや。
とりあえず、近くにある部屋に入ってみよう。

スウツ

扉を開けてみると

中は薄暗くいたるところに本が散らばっていた。
そして、真ん中には机とイスがあり、女の子が座っておりそこだけ
が明るかった。

すると、女の子は立ち上がり

「クソ、恵まれた生まれ！恵まれた容姿！恵まれた才能！恵まれた
環境！どれもこれもクソ喰らえだ！！」

「こんな恵まれた人生じゃ私は駄目になる！幸福からは何も生まれ
ない！」

「もつと苦しまなきゃダメだ！もつと追い込まなきゃダメだ！も
つと地獄を、もつと地獄を、もつと地獄を！！」

わぁー、やっべー！

入るところ間違えたかな？

まあ、とりあえず

「そうか？別にそこまでしなくてもいいんじゃない？」

「あ？誰だよテメー？」

「まあ、たしかに、歴史上の偉大な人らは劣等感からいろいろな発
見はしてきたさ」

「あん？またテメーもどうせ俺をここから出す為の口実だろ？」

「いや、違うけど？」

「は？」

「俺は別にあんたがどうなろうと別に知らないけど、偉大な人たちも何も全部が劣等感だったわけじゃないんじゃない？まあ、よくは知らないけど」

「だから、あんたもそんな追い込むこたあないんじゃない？」

そう俺は言い微笑んだ。

「／／／！！」

「じゃあ、俺は行くわ、じゃあな」

そう言って、俺は部屋を出た。

部屋を出た所で俺は思いつきり横に吹っ飛んだ。

「グフツ！？」

「今まで何処に言っていたんだ馬鹿者！」

目を開けるとめだかが抱き付いていた。

いや、違うけど？（後書き）

くじらの口調こんな感じで大丈夫ですかね？

なんか不安です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8110y/>

チートな過負荷の異常者

2011年11月29日23時54分発行